

奥井 宏幸

兵庫県淡路県民局「南淡路農業 改良普及センター」担い手育成 支援専門員。南あわじ市のタマ ネギ農家でもある。淡路島がべ と病に苦しむ中、的確な防除と 徹底した管理で病害を発生させ なかったという実績をもつ。

床 からしっかり対策!

のべと病を防ごう

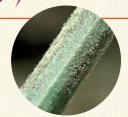
タマネギのべと病はなかなか悩ましい病です。

病原菌は土壌で長期にわたり生き続けるので、根気よく取り組むことが大切です。 タマネギ産地で病害対策に成果を上げている専門家から、その防除法を学びましょう。

\ベと病を知ろう /

病原菌はかびの一種

べと病の病原菌はかびの一種で、葉に菌糸や胞子を形成 するので、かびが生えたように見えます。胞子には卵胞 子と分生胞子があり、卵胞子は収穫後の残渣に残り、残 った土壌でタマネギを育苗したり定植すると感染します。 この卵胞子は高温や乾燥に強く、土中で10年以上生存し たとの報告もあります。



タマネギの葉に形成された べと病の分生胞子。かびが 生えたように見える。

感染経路と症状

- 発病した圃場で育苗すると、土中に生存し ていた卵胞子が発芽して感染します。苗床 で感染すると、葉に白い粉がふいたように 分生胞子が発生しますが、まとまって発生 することが少ないため、見過ごしてしまう ことがあります。
- 2 感染した苗を定植すると、早春(極卓生品 種では1月ごろ)に発病して全身感染株と なり、温暖多雨条件にあうと分生胞子が大 量に作られます。10a当たり3本の全身感 染株で、圃場全面に感染するほどの分生胞 子が形成されます。
- 3 分生胞子は周辺に飛散(風が強い と 100 m以上の広範囲に) し、7 ~14日の潜伏期間を経て発病、さ らに感染が拡大して被害葉に再び 卵胞子が形成されます。圃場内に 全身感染株がなくても、風で飛ん できた分生胞子で感染するので、 地域全体での対策も必要です。



飛んできた分生胞子で感染した葉の病状。 圃場内に全身感染株がないのに感染した。



苗床で発病したべと病。見過ごさないよ う、よく観察する。



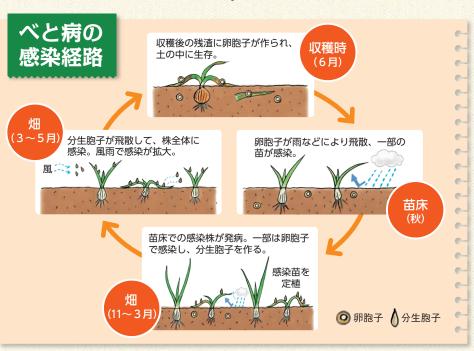
全身感染株。草丈が低く、葉が黄色くな り湾曲する。葉の根元には斑点が出る。

「庫県・ が必要かがお分かりになるでしょう。 しょう。すると、なぜ苗床からの継続的な対 まず病原菌

)ため、ここ数年間は発生のリスクが非常にでと病の病原菌は、土壌中で長期間生き続き 病が大発生し、 2016年春、 淡路島でも約60年ぶりの大発生となり 収穫量が大幅に減少しまし 西日本のタマネギ産地では の性質をよく知っておき



べと病が発生した畑。激発すると、畑一面が褐変 して焼けたようになる。



\べと病はこう防除する /

苗床での対策

1 苗床の選定

前作にタマネギの作付けがなく、夏の高温期に30日以上水張 りをした圃場を選びます。

2 土壌を消毒

水張り後、8月上旬に排水して太陽熱消毒を行います。この 時、元肥などをあらかじめ施用しておきます。

べと病は湿度が高いと感染しやすいので、排水性を考慮して 25cm以上の高畝とします。

畝立て後、雑草対策としてダゾメット粉粒剤(バスアミド微 粒剤など) 1 m当たり20gの表層処理をして散水後、ビニー ルで被覆します(薬剤処理はタネまきの14日前までに)。 播えて日前にはビニールを除去してガス抜きし、播種前にレ ーキで浅く整地してからタネをまきます。

(3) 葉の刈り取り

葉が伸びすぎて倒れる恐れのある時は、葉の刈り取り(剪葉) をします。倒伏すると下葉が枯れ、細菌性病害の発生する原 因となります。なお、剪葉前日に細菌性病害に登録のある農 薬で防除しておくと病害の発生が少なくなります。



土壌消毒の様子。被覆したビニールが飛ばないよう防風ネットで押さえる。

4 薬剤で防除

11~12月の気温が平年より高く、降水量が多い年 は、べと病に感染しやすいので、苗床での薬剤防 除が必須です。ランマンフロアブルやアミスター 20フロアブルを散布します。さらに定植後の初期 感染予防を期待して、定植前日にフロンサイド水 和剤を使用するとよいでしょう。

畑での対策

1 全身感染株は見つけ次第、すぐに抜き取り、直ちに薬剤防除 を行います。

春の感染期には、降雨予想の24時間前までの薬剤 防除が効果的です。



タマネギ王国「淡路島」復活!

兵庫県・淡路島では2016年に べと病が大発生しましたが、 農家はもとより家庭菜園の愛 好家も含め、全島で防除対策 を実践することにより、今で は大幅に被害を軽減できまし た。タマネギ畑ではヒバリも 巣づくりをするなど、緑のタ マネギ畑が復活しています。





タマネギ畑はヒバリの営巣場所でもある。

苗床から注意が必要な そのほかの病気

灰色腐敗病や細菌性病害も苗床から持ち込む ことがあるので、農薬による定期的な防除と 排水対策が必要です。



細菌性の病害に侵された苗。